

共創の場形成支援プログラム【共創分野】

拠点名称：誰もが参加し繋がることでウェルビーイングを実現する都市型ヘルスcommons共創拠点



代表機関	慶應義塾大学	プロジェクトリーダー	中村 雅也 慶應義塾大学 医学部 教授
参画機関	東京科学大学、理化学研究所 株式会社電通総研、i2medical 合同会社、アサヒ飲料株式会社、株式会社グレースイメーシング、オムロンヘルスケア 株式会社、FrontAct株式会社、株式会社デジタルガレージ、株式会社電通、NTT株式会社、株式会社ヘルスケアリレーションズ、三井住友海上火災保険株式会社、三井不動産株式会社、ミネベアミツミ株式会社、一般社団法人LINK-J、ライフログテクノロジー株式会社、MS&ADインターリスク総研株式会社、株式会社Millic、東京都、神奈川県、川崎市、豊島区		

プロジェクトの概要

私たちは、「誰もがつながり、安心して暮らせる健康な社会」の実現を目指しています。

医療・介護・ヘルスケアの情報をつなげることで、必要なサービスにスムーズにアクセスできる仕組みをつくり、病気の悪化や介護離職を防ぎます。また、孤立しがちな高齢者や若い介護者の支援、健康不安による貧困の連鎖の解消にも取り組みます。

そのために、大学や研究機関、地域が連携し、多様な人々が協力する仕組みを整備し、研究や人材育成、医療現場への実装を進め、新たな医療・サービス・ビジネスを生み出す土台を築きます。

都市での共生とウェルビーイングの実現に向けて、一歩ずつ取り組んでいきます。

拠点ビジョン

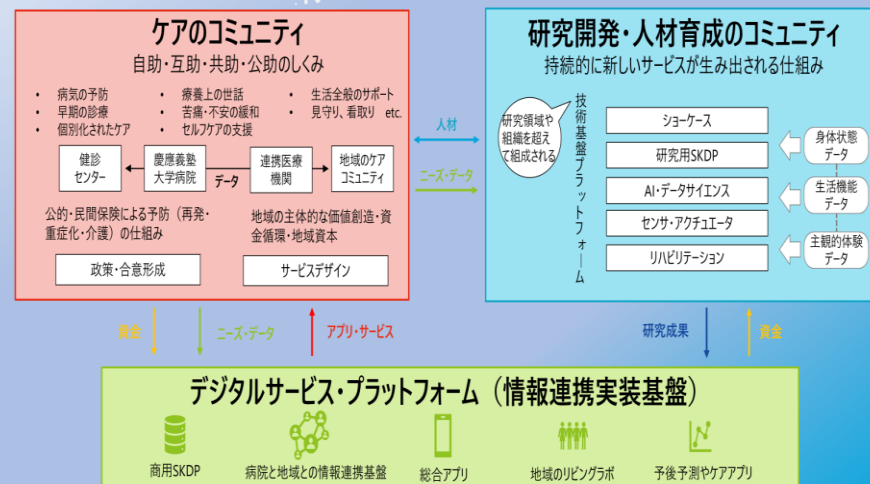


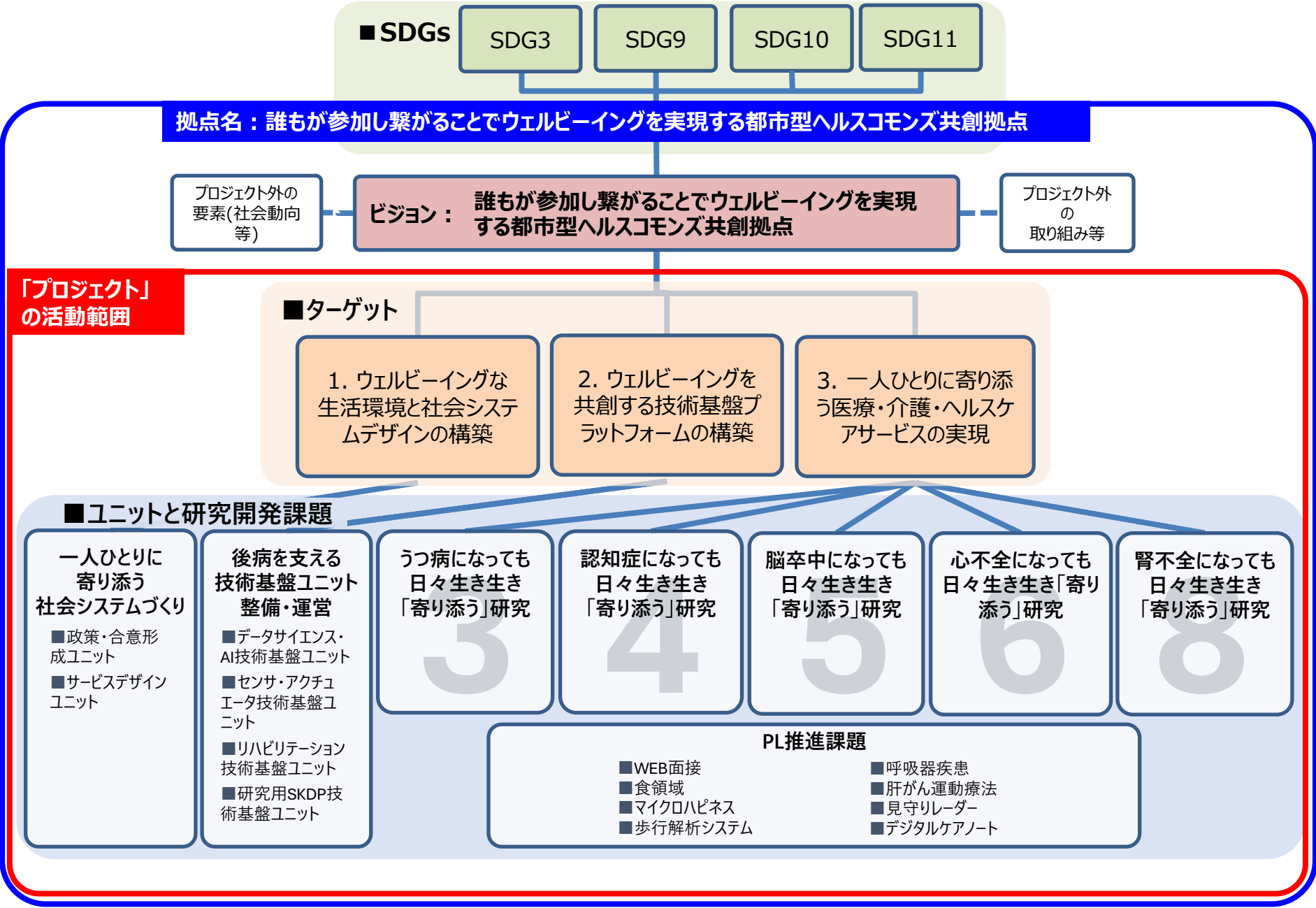
都市型ヘルスcommons共生社会の実現



デジタルプラットフォームがコミュニティを繋ぎ、病院と地域での生活に一貫性のあるケアサービスを提供することで、一人ひとりに寄り添いを実現し、生活者中心の医療の高度化と地域生活のウェルビーイング向上とUHCを実現

ありうべき2040年 国民皆保険制度の行方、経済・医療格差、気候変動、人口動態、医療リソース縮小 etc.





拠点名称：誰もが参加し繋がることでウェルビーイングを実現する都市型ヘルスコモンズ共創拠点

代表機関：慶應義塾大学

プロジェクトリーダー：中村 雅也（慶應義塾大学 医学部 整形外科学教授）

研究開発課題3「うつ病になっても日々生き生き「寄り添う」研究」の目標		年度
中間目標6	データ収集・中間解析	2023
中間目標7	上記のスケールアップ	2025-2026
中間目標8	予測アルゴリズムの精度アップ	2027
PoC達成目標5	事業プロトタイプの検証	2027
最終目標4	事業の社会実装	2030
研究開発課題4「認知症になっても日々生き生き「寄り添う」研究」の目標		
中間目標9	データ収集・中間解析	2023
中間目標10	上記のスケールアップ	2025-2026
中間目標11	複数企業との連携体制構築	2026
PoC達成目標6	事業プロトタイプの検証	2027
最終目標5	事業の社会実装	2030
研究開発課題5「脳卒中になっても日々生き生き「寄り添う」研究」の目標		
中間目標12	データ収集・中間解析	2022
中間目標13	エビデンスの構築	2024
PoC達成目標7	事業プロトタイプの検証	2027
最終目標6	事業の社会実装	2030
研究開発課題6「心不全になっても日々生き生き「寄り添う」研究」の目標		
中間目標14	データ基盤の構築	2023
中間目標15	データ収集・中間解析	2026
PoC達成目標8	事業プロトタイプの検証	2027
中間目標16	生活支援ツールの開発	2029
最終目標7-2	データ基盤の活用と運動支援ツールの開発	2030
研究開発課題8「腎不全になっても日々生き生き「寄り添う」研究」の目標（2025～）		
中間目標18	予測アルゴリズムの開発	2027
PoC達成目標9	予測アルゴリズムの実証	2027
中間目標19	事業プロトタイプの検証	2028
最終目標8	事業の社会実装	2030

拠点名称：誰もが参加し繋がることでウェルビーイングを実現する都市型ヘルス commons 共創拠点

代表機関：慶應義塾大学

プロジェクトリーダー：中村 雅也（慶應義塾大学 医学部 整形外科学教授）

